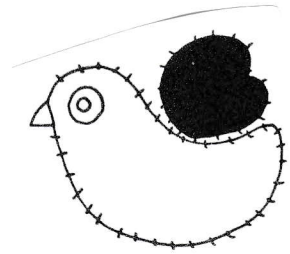

磯津の言葉（諺）（第 24 回）

第 24 回は、前回に引き続き天候に関する諺（ことわざ）です。

＜天候に関する諺 No.3＞

① 光や明るさ関するもの

区分	諺（ことわざ）
月	・お（っ）月さんが暈かぶると雨 ・おっ月さんが輪かいたら雨
太陽	・おひさんが暈をさかぶると雨
	・朝焼けは天気
	・夕焼けになると（明日は）天気 ・あかねほすと（明日は）天気
	・夕日に小日はその日の雨風、朝日に小日は三日後に雨風
月と太陽	・月に雨がさ、日に日がさ
遠景	・山が近いと雨

② 虹、雨、雷に関するもの

区分	諺（ことわざ）
虹	・雨のあげくに虹がでる
	・朝虹に橋を渡るな
雨	・雨が上がると（西）風が吹く
夕立	・夕立は馬の背を分ける ・疾風は馬の背を分ける。
雷	・朝雷に川越えするな
	・空雷（:からかみなり）は怖い
	・雷が鳴ったらせつ（＝梅雨）が明ける ・大雷が鳴ったらせつが明ける
	・信濃雷、鍋釜割れる ・信濃雷に油断するな

③ 雪に関するもの

区分	諺（ことわざ）
雪	雪降りのあげくは裸の洗だく

④ 音に関するもの

区分	諺（ことわざ）
音	・電車の音が聞こえると雨（が近い） ・船の汽笛が近いと霧

磯津ことばを記録する会（連絡先）　桜井好基